

蒲郡市男女共同参画情報紙

はばたき

特集●蒲郡市の男女共同参画の
推進について

市議会議員の皆さんに聞きました

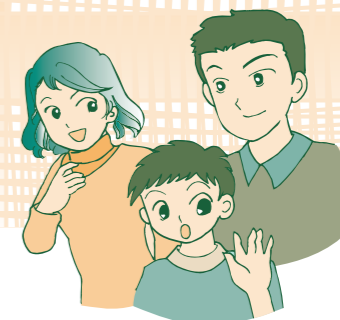
「チャンスをつかち、未来を拓こう」

(平成23年度 男女共同参画週間標語)

第21号

2012.3

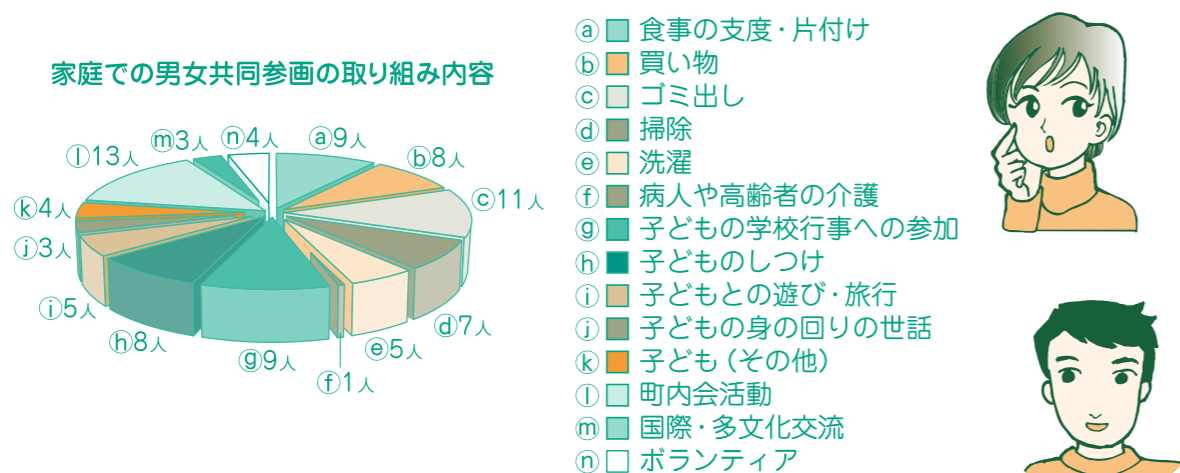
「協働による男女共同参画の推進へ向けて」



蒲郡市では、男女共同参画社会推進のため、先の「蒲郡市男女共同参画プラン」を改定し、平成23年3月に「第2次蒲郡市男女共同参画プラン」を策定しました。男性と女性が個性を活かして協力し、尊重し合う男女共同参画社会の実現をめざします。

今回は、市議会議員の皆さんに男女共同参画の推進についてのアンケートにご協力をいただきましたので、その結果をご報告いたします。

Q 家庭内で実行している「男女共同参画」は何ですか（複数回答可）



Q 男性の育児休暇について、どのようにお考えですか

- おおいに活用し、育児の責任を果たすべき。
- 良いと思う。（共働きの家庭は取得できると良い。男女ともに取得でき、育児を分かち合えると互いに良い）
- 職場環境が整えば理想的と思う。
- 地元企業ではなかなか難しいと思う。

（その他意見多数）



Q 子育てがしやすく、高齢者が過ごしやすい街にするためには

- 循環バスなど、公共交通機関の利便性を図る。
- 介護サービスの充実。
- 待機児童の解消。
- 安心してお産ができること。
- 子ども施策の窓口一本化やファミリーサポートセンターの設置など地域で子育てをする。

（その他意見多数）



Q 市議会議員として「男女共同参画」の推進は何から、どこで実行できると思いますか

- まずは家庭から個々を認め、地域へ、社会へ。
- 防災対策等、女性の視点を取り入れた政策の提案。
- 男女共同参画への共通の認識を持つこと。意識改革。
- 働きながら資格取得できるようにできれば法整備し、また事業所内保育所があればさらに良いと思う。
- 女性の社会参加、地域活動の参加機会を増やし、男女が一緒に活動できるようにする。
- 市民の声を聞き、機会あるごとに取り上げていく。
- 地域行事等において、男女共同参画を推進する。

（その他意見多数）



Q 市政全般における、市議会議員としての決意をお聞かせ下さい

- 市民が安全で安心して暮らすことのできる町づくりを目指す。
- 保育を充実すれば、若い母親の社会進出や行事への参加も可能になるのではないかと。少ない予算で効果の高い施策を行うためには優先順位をつけ、集中的に実施すべきと思う。
- 新企業の創設、企業の誘致を行い働く場所を作り、人口を増やすこと。また農作放棄地の有効利用が最優先課題と考える。
- 待機児童をなくし託児所を充実して、女性が社会進出できる施策を推進していく。
- 税金の有効な使われ方、市民が住みやすいと思うまちづくり、蒲郡が良い方向に向かうよう進めていく。
- 言葉だけでなく、未来に責任のある政治。
- 税金を上げなければ何もできない。人口問題もそうだが、基本はまちが元気で活発になること。市が繁栄するには経済産業の基盤がしっかりできなければいけない。経済の活性に力を入れていく。

（その他意見多数）



アンケートの結果から

家事や子育てに関わっていらっしゃる議員さんが多く、男女共同参画への意識もかなり高いと感じました。男性の育児休暇については、大いに育児に関わるべきという積極的意見がある一方で、企業の規模によっては取得するのは難しいのではという現実的な意見もありました。一人ひとりの生き方が多様化してきて、それぞれの立場で取り巻く環境がさまざまな今だからこそ、誰もがいきいきと生活できる男女共同参画社会の推進と実現が必要だと思えます。

協働による男女共同参画の推進へ向けて

蒲郡市長 稲葉 正吉

本市は山と海に囲まれたすばらしい自然環境の中で、観光と繊維産業をはじめ、農業や漁業、商業、工業などの幅広い地域産業を男女が力を合わせて支えています。

私は「活気ある、元気な蒲郡」を目指して、男女共同参画の視点に立った協働のまちづくりを一步ずつ着実に進めてまいりたいと考えております。多くの女性が参加して中心的な役割を担っている自治会活動やボランティア活動、市民活動はまちづくりの大きな原動力であります。「第2次蒲郡市男女共同参画プラン」(平成23年3月策定)の基本計画では、「持続ある地域づくりと協働による男女共同参画の推進」の項目が設けられ、ますますその重要性が高まっています。

この第2次のプランでは、男女が対等なパートナーとして個性と能力を十分に発揮することができる“男女いきいき蒲郡”の実現のために、家庭、地域、職場の3つの場における男女共同参画をさらに推進してまいります。

今後も誰もがいきいきと生活でき、「住んで良かった」と思えるようなまちづくりのために、そして男女共同参画社会の実現に向けて、より一層努力をしてまいりますので、市民や団体、企業等の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



編集後記 Editor's note

50年後の日本の人口は現在の3分の2となり、高齢者が40%を占め、今よりさらに子どもが少なくなると予想されています。女性の労働力がますます必要とされ、子育ては社会全体で行う時代になるでしょう。「協働」とか「男女共同参画」を謳わなくても自然にそうなる 때가近づいているような気がします。

本市も若い議員が増え、家庭内での男女共同参画が進んでいる様子がアンケートから見えました。私自身、実際に「はばたき」の編集に関わってみて、男女共同参画についていろいろ考える良いきっかけとなりました。

はばたき 第21号
2012.3

ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

発行／蒲郡市 企画広報課

編集／「はばたき」編集委員

〒443-8601 蒲郡市旭町17-1

■TEL 0533-66-1162 ■FAX 0533-66-1190

■Eメール kikaku@city.gamagori.lg.jp